鉄砲洲神社　論語素読　解説

（平成 22 年 12 月 3 日）

雍也第六

21　子曰く、知者は水を楽しみ、仁者は山を楽しむ。知者は動き、仁者は静かなり。知者は楽しみ、仁者は　寿　し。

孔子が言うには、知恵のある者は水を楽しみ、道徳の完成した人は山を楽しむものだ。知恵のある人間は世の中の道理に通じていて、その心は自由闊達で水の流れのように滞らず流れるものだ。水は自由自在に高い所から低い所へ流れていく。知恵のある人間は活動的であるし、道徳の完成した人はどっしりと落ち着いている。知者は自然を楽しむ人生を送るだろうし、道徳が完成している人は結果として寿命が長いものだ。

「仁者は寿し」という部分は、どうも引っかかります。道徳的に素晴らしい人が命が長いのであれば、なぜ顔回は早死にしたのかと思わざるを得ません。日本で寿命が長いというと、一時期、沖縄の人は長寿だといわれました。最近はどんどん短命化しているそうです。調べてみると、アメリカ型の食事を取り入れたので寿命が短くなったようです。食事がそのまま影響するのではないかと感じます。早死にをする人は、ストレスが溜まるとか、肉食中心の人が多いようです。

孔子の時代の仁者というのは、食べものは孔子型だったように思います。論語の中で食に関して書いてある文章をみると、腐ったものは食べない・季節はずれのものは食べない・肉を多く食べない・道端で売っているものは食べない等、孔子は相当氣を遣って自分の食事を選んでいました。やはり食べものは、よほど自分にあわせたもの、旬のもの・土地のものを食べるのが良かろうと思います。

ちなみに今の政治家は長生きですね。「政治家は寿（いのちなが）し」で置き換えて考えると、ストレスは人にあげています。本来受け取るべきストレスを自分自身に受け止めていたら早死にしますから、どんどん人にあげてしまう。鳩山さんは代表例でしょう。政治家を辞めると言っておきながら、都合が悪くなれば撤回する。母親から貰っていたお金についても、世間があれほど叩いたにもかかわらずケロッとしている。これならストレスなど溜まるはずがない。鳩山さんより小沢さんの方がストレスを溜めて病気になっているような氣がしますから、小沢さんは本来政治家であるべきではないという感じがします。

この文章は仁者と知者の部分に、政治家、経済人、官僚、私・・・というように自分の

好きな言葉を当てはめてみるとよろしい。渋沢栄一さんはこの文章を自分に置き換えて、「私は若い時から、楽しみや遊びに耽るようなものは一切なかった。けれどもこの歳になって楽しみは 2 つある。一つは論語を人さまにお話すること、もう一つは慈善や公共事業のために寄付金を集めることだ」と言っています。

渋沢さんは世のため・人のためになるような事業を興すとか、世の中のためになるようなお金の使い方をすると聞いたなら、率先して奉加帳を作り、自分が最初に名前を書いてお金を寄付し、その奉加帳を持って経済界をぐるぐる回って寄付を集めました。「売名行為でやっているのだという人がいるけれども、売名のためにこんなにわりの合わないことをやるわけがない。ひたすら世のため・人のためになると信じてやるから、寄付金集めは無上に楽しい」とも書いています。

人によって楽しみは大分違うものだと感じます。自分自身の楽しみは何か。それが長生きに通じるような楽しみであれば良いと感じます。

22　子曰(しいわ)く、斉(せい) 一変(いっぺん)せば、魯(ろ)に至(いた)らん。魯(ろ) 一変(いっぺん)せば、道(みち)に至(いた)らん。

孔子が言うには、斉という国を改革すれば、魯の国に近づくことができるであろう。周公が魯を作った頃は、礼を重んじ信義を尊ぶ理想的な国でした。そして斉が今のスタイルをどんどん進めて努力すれば、理想の国になるであろう。

今の日本で考えましょう。北朝鮮が改革をすることによって、韓国に近づくことができるであろう。韓国が一変することによって、日本に近づくことが出来るであろう。日本は今、どんどん衰退しています。かつては、Japan as Number One（日本は素晴らしい国だ）という評価でしたが、今はアメリカから見ると、日本はどんどん落ちている国、病にかかった国という感じで評価されています。日本の中にいる人間は、そういう評価が見えてこない。これは民主党が日本の国の落下のスピードをどんどん上げて、坂道を転げ落ちる先頭を切っているのが民主党だと感じます。

23　子曰(しいわ)く、觚(こ) 觚(こ)ならず。觚(こ)ならんや、觚(こ)ならんや。

觚というのは盃のことです。理想の時代といわれる周の時代の酒器は、青銅で出来ていました。2 升ほど入るものだったそうです。それが戦国時代になると、漆器の盃に変わった。

孔子が言うには、昔の酒杯は良かった。なんでこういう大事なものを勝手にころころ変

えていくのだろうか。

昔の良きものがどんどん変わっていってしまう。実に情けないという孔子の嘆きです。

昔の良い風習・習慣がどうしてどんどん変わっていくのか・・・という孔子の嘆きを今の時代にあわせて考えると、少し例えがいけないかもしれませんが、皇室に対するものの見方が、ほんの僅かの間にがらんと変わってきていると思います。国会で秋篠宮ご夫妻が、天皇陛下が入って来られる 5 分間を立って待っておられたところ、国会議員がさっさと座れと野次を飛ばしたと報道がありました。実際は、ぼやいたようですが、しんと静まり返っていたので周りに聞こえてしまった。選良たる国会議員が皇室に対してそういうことを言うというのは、わずか 60 数年の間で誰が想像したでしょうか。

24　宰我(さいが)問(と)いて曰(いわ)く、仁者(じんしゃ)は之(これ)に告(つ)げて井(せい)に仁(ひと)有(あ)りと曰(い)うと雖(いえど)も、其(そ)れ之(これ)に従(したが)わんやと。子(し)曰(いわ)く、何為(なんす)れぞ其(そ)れ然(しか)らんや。君子(くんし)は逝(ゆ)かしむべし、陥(おとしい)らしむべからざるなり。欺(あざむ)くべし、罔(し)うべからざるなりと。

孔子の弟子の宰我が、孔子に意地悪な質問をしました。

仁者は、井戸に人が落ちていると言われたらなら直ぐに飛び込みますか。

孔子が答えました。

どうしてそんなことをするものか。直ぐに飛び込むわけがない。立派な人間は、井戸までは走っていくけれども、井戸に入ることはしない。井戸の上から中をのぞいて、人が落ちているかいないか確かめて、落ちているのであれば助ける手立てを考える。何も調べずに馬鹿な行動をとることはしない。

君子は、道理がきちんと通っているものであれば騙すことが出来る。しかしあり得ないことだと思うようなことであれば、欺かれることはない。

前原さんは八ッ場ダムは建築を凍結すると言って、国交省の大臣を辞めてしまいました。次の大臣が今度は凍結を撤回すると言いました。人事というのはコロコロと動くのが便利だなと思いました。前原さんは何も調べないで凍結と打ち出しました。振り上げた拳をどう下ろすか困っていたわけですから、大臣を降りることが出来てホッとしているのが現状ではないかと思います。騙される事業・騙されない事業というので分けていくものの見方が、一つ生まれると感じます。